



地元と大学の共同管理『篠栗九大の森』がオープン —全国でも初の試みとなる演習林林地の開放—

概要

このたび九州大学農学部附属演習林と篠栗町との共同で整備を進めてきた『篠栗九大の森』が完成し、平成22年7月18日正午に開園することとなりました。『篠栗九大の森』は、17haの敷地内に2kmの遊歩道を配置した、市民の方々が自然を体感できる森で、このような演習林林地の開放は、全国でも初の試みです。開園に先立ち、下記のとおり「篠栗九大の森オープン記念式典」を開催します。

背景

九州大学は、「教育」、「研究」、「国際貢献」と共に、「社会貢献」を主要な活動分野と定め、教育研究の成果を地域社会にフィードバックすることや、生涯学習の機会を市民の方々に提供することを心掛けてきました。一方、篠栗町は、九州大学農学部の附属施設の中で最も古い歴史を持つ、福岡演習林が所在する町であり、町民の健康と関連した森林利用に高い関心を持ち、昨年「森林セラピー（後述）基地」の認定を受け、その活用に取り組んでいるところです。

九州大学農学部附属演習林と篠栗町は、平成20年7月に、「九州大学福岡演習林の一部17haを、両者の共同管理により『篠栗九大の森』として地域住民に開放する」旨の覚え書きを交わし、平成20年度、21年度の2ヶ年にわたって、両者で『篠栗九大の森』整備事業を進めてきました。

内容

「篠栗九大の森オープン記念式典」

1. 開催日時 平成22年7月18日（日） 10時30分～
2. 開催場所 九州大学福岡演習林『篠栗九大の森』 南入口駐車場（糟屋郡篠栗町大字和田1009）
3. 出席者 (篠栗町) 町長 三浦 正
副町長 藤 和義
町議会議員 今泉 正敏
町議会議員、地区代表者
(九州大学) 理事・副学長 今泉 勝己
前総長 梶山 千里
農学研究院長 吉村 淳
副院長 白石 進（前附属演習林長）
附属演習林長 吉田茂二郎
福岡演習林長 薛 孝夫

福岡演習林は、篠栗町と久山町にまたがって飛び地状に約480haの森林を有していますが、このうち、市街地近くに位置し、蒲田池を取り囲む丘陵状の二次林17haを、『篠栗九大の森』として開放するものです。

整備にあたっては、九州大学が、枯れマツの伐採搬出や林内の切り透かしなどの森林整備を行うとともに、広場4箇所の整備、遊歩道約2kmの開設、樹木名板の設置など、自然とのふれあいや環境学習に利用できる場の整備を行い、篠栗町が、駐車場2箇所の整備、トイレ1棟、あずまや2棟の建設など、利用施設の整備を行ったほか、隣接する町道に歩道を設け、池への侵入を防止するネットフェンスを設置するなどの安全対策を行いました。

今後の展開

林地や広場などの森林管理、植生管理は九州大学が担当し、利用上の便益施設や安全施設の管理は篠栗町が担当します。地元の自治会からは、定期的なパトロールや清掃、日常の安全点検などを自主的に行う旨の申し出を受けています。また、『篠栗九大の森』で行われる観察会や環境学習には、演習林のスタッフも協力します。

■効果

福岡演習林は、福岡市の近郊という立地条件から、林地の自由な利用について多くの市民の方々から強い要望がありましたが、安全管理上や財産管理上の問題から、これまで休日や職員のいない時間帯に入林を許可することはできませんでした。今回の『篠栗九大の森』の開園は、安全に配慮した「地元と大学の共同管理」という方式を初めて導入することにより、自由な入園を可能にしました。このような形での演習林林地の開放は全国でも初の試みです。

自由に散策できる遊歩道の完成により、演習林の樹林地を自然観察や環境学習に利用しやすくなり、長らく演習林の開放を望んでいた近隣住民の皆様にとっても、その希望が叶うこととなります。また、運用の過程で生じる、演習林と地元住民との協働作業などを通して、大学と所在自治体との協調関係がより円滑になることが期待できます。

※森林セラピー

医学的証拠に裏付けされた森林浴効果をいい、森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目指すもの。



【お問い合わせ】

- 九州大学 福岡演習林長 薛 孝夫 せつ
電話：092-948-3108
携帯：090-2582-9308
FAX：092-948-3127
- 篠栗町 産業観光課長 因幡 耕三
電話：092-947-1111
FAX：092-947-7977